



長野県下高井農林高等学校 峻嶺会報

校歌・応援歌のCD販売中

CDには校歌、応援歌No.1、No.2とそれぞれの曲なしを収録

校歌・応援歌



峻嶺会の近況 会長 池田 利恵子

新しい年を迎えまして、峻嶺会会員の皆様におかれましては、如何お過しのことでしょうか。昨年は元旦早々に、能登半島の大地震に見舞われ、各地方にお住いの皆様にも、多少なりとも被害の影響があったのではないかとお察しします。今年こそは、災害の無い平穏無事な一年であって欲しいと願うばかりです。一年の計は元旦にありと言いますが、皆様は、計画をお立てになりましたか。私事ですが、とりあえず計画を立ててみました。健康的に痩せて、目標体重達成に向けて努力する事です。計画倒れになってしまう気がしますけど…。叶ったら嬉しいですね。頑張ろうと思います。

さて、峻嶺会の近況でございますが、学校行事やイベント等への参加、三役会・支部長会等、各種会議への出役です。中でも、私が思う一番重要な会議ですが、開校120周年記念事業についての会議でございます。令和8年は、下高井農林高等学校開校120年の年に当たります。その120周年記念事業開催の為に、準備委員会を立ち上げ、学校長を始め関係学校職員、PTA役員、峻嶺会役員が一堂に会して、意見交換を行い、時には過去の周年事業の事を振り返りつつ、試行錯誤しながらではありますが、話し合いを行っている最中でございます。素晴らしい記念事業となる様、準備委員一同、精一杯の尽力で臨む所存であります。尚、峻嶺会会員の皆様も、ご意見ご要望がございましたら、下高井農林高等学校へ御一報いただけますと幸いに存じます。当日もご協力していただく事があるかもしれません。その際は、快くお引き受け下さいます様、お願いします。重ね重ね、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、峻嶺会会員皆様の、ご健康、ご多幸、ご活躍、また下高井農林高等学校の発展を祈念申し上げます。簡単ではございますが、峻嶺会の近況報告の挨拶とさせていただきます。



地域とともに歩む下高井農林高校 学校長 藤田 洋子

峻嶺会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、ご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本校は今年度創立118年目を迎え、農業科を備えた専門高校として、地域社会と共に歩んできました。北信州の豊かな自然や文化を活用した学びを展開し、地域の未来を担う人材育成に邁進しております。令和4年度には学科改編をし、現在は地域創造農学科（産業創造コース、環境創造コース）の1学科2コースとなりました。

産業創造コースでは、農産物の生産から加工、販売までを一貫して学び、6次産業化の実践を通じて地域の活性化を図っています。中でも、地域ブランド「北信州みゆきポーク」の存続を目指す取り組みでは、生徒たちが生産農家の方々と協働しながら養豚を学び、地域の伝統を未来へとつなげています。

環境創造コースでは、地域資源を活用した持続可能な社会の実現を目指しています。竹の間伐材を使ったバンブーキャンドルづくりや伝統工芸品「小沼ほうき」の技術継承、クマによる人身被害を防ぐため8年前から行われている、誘因物となる柿を取り除く「シブガキ応援隊」の活動など、生徒たちは自然環境や地域文化の保全に積極的に取り組んでいます。さらに、今年度は3年生4名によるクマとの共生を目指す課題研究で、生徒自ら地域でボランティアを募ったところ、多くの方々の協力が得られ、半日で木島平村和栗地区の38アールもの草を刈ることができ、設置されたセンサーカメラからもクマの姿はなくなりました。

旧第1通学区を含む地域社会には、少子高齢化や人口減少等に伴う様々な課題があります。しかし、生徒たちはこれらの問題に真正面から向き合い、解決策を探究し、よりよい社会の構築を目指して主体的かつ協働的に取り組んでいます。生徒自身もこのような実践的・体験的な学習活動を通して自己肯定感や自己有用感、社会参画意識を育み、地域や社会の持続的な発展を担う人材へと成長しています。

峻嶺会の皆様方におかれましては、これからも本校の発展にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



下高井農林高等学校ホームページのQRコード



副会長に就任して 副会長 宮崎 ゆりか

この度峻嶺会副会長に着任致しました宮崎ゆりかです。宜しくお願いいたします。久しぶりに農林高校に伺った時に暑かった夏の日の加工トマトの収穫と、加工クラブで作ったトマトケチャップとジャム、野菜や花を育て販売に行った事を思い出しました。

地元地域を大切に伝統を守りつづけた農林高校はとても素晴らしいと思います。

コロナ感染症五類移行となりつつも以前と同じ様とまではいかないですが、行動がこれまでの様に少しずつ戻りつつ、農林高校のイベントである農林祭も思考を考えながらの一般公開が行われたり、各種の大会でも優秀な成績を収め、生徒達の努力と活躍をお聴きしています。また、環境創造コースの生徒達が飯山市の中央橋を雪と風から守るための「よしず張り」を行っているニュースを見ると、とても地域社会に活躍する、活躍できる生徒達だなあと誇りに思いました。

最後に、創立120周年記念事業に向けて微力ではございますが、協力していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

緩衝地整備ボランティアを終えて

地域創造農学科 環境創造コース3年 深谷禮輝 塩崎一颯 長張瑞樹 荒井鴻希



緩衝地整備の様子(9月)

私たちは、ツキノワグマが村内に出没していることからクマが里に降りてこない取り組みとして緩衝地整備が有効ではないかと考えました。緩衝地とは、図1のように人里と山の間に設けられる空間で、人と野生動物が居住空間を認識するための境界線のような役割をしています。緩衝地の整備は、私たちだけで行うことも可能でしたが、地域の皆さんにもクマについての関心をお持ちいただきたく、地域の皆さんを交えてボランティアとして行いました。今回は、和栗地区にて緩衝地整備ボランティアを開催しました。和栗地区は電気柵が設置されていない場所があり野生動物の通り道となっています。私たちは緩衝地の整備の効果を見込み総勢38名で草刈りを行いました。草丈が、人間の身長より遥かに高く、作業が困難に見舞われましたが、当初予定していた12aの範囲の3倍以上の38aの範囲まで整備を行うことができました。

ボランティアを実施したことで地域住民のクマへの関心は高まり、クマへの対策についての可能性を見出すことができたと思います。

そして私たちが主体となり取り組むことは、私たち自身の成長につながり、多くの人の力で社会全体のために活動することで充実感を得ることができました。当初の目的でもあるクマの出没にも効果がでています。今後も調査を行い、このような機会も継続出来たらと考えています。



図1 緩衝地

みゆきポークを生産して

地域創造農学科 産業創造コース3年 課題研究ブタ班

私たちは、地域のブランド豚である「みゆきポーク」が後継者不足により、生産されなくなる可能性があるとして2年生のときに知りました。そこで、私たち6人はみゆきポークをさらに美味しい肉にすることで、さらなる付加価値をつけて売ることによって収入が上がり、みゆきポークの生産を儲かる事業にでき、後継者不足を解消できるのではないかと考えました。

みゆきポークを美味しくするにあたって、私たちは簡単かつ低いコストで実現でき、現役の生産農家でも行える方法として、ストレスのない運動のできる環境づくりをし、餌に農林高校の実習で出た廃棄する野菜等を餌として与え、食欲増進や与える野菜の栄養素が豚の肉質に良い影響を与えるのではないかと考えました。そのため去年先輩方が課題研究で使っていた外豚舎を広く改築し、ケチャップづくりで出たトマトの要らない部分を豚に与えることにしました。そこでトマトを冷蔵庫に入れておいたら、カビてしまって一部捨てることになってしまったことや、運ぶのが大変だったこともありました。

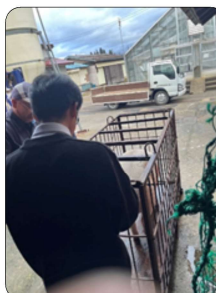
そして7月に豚を迎え、11月に出荷しました。最初は小さくてかわいかった豚があっという間に大きくなり、トラックに運ばれていったときは、悲しい気持ちになりました。そしてお肉になって帰ってきた豚をみんなで食べました。とても脂が甘くて柔らかい食感で、今まで食べた中で一番美味しい豚肉でした。研究の調査のため、クラスメイトや先生方に試食してもらい美味しいと言ってもらえた時は、とても嬉しい気持ちになりました。改めて、食べ物の有り難さを感じさせられました。

しかし、脱走されかけたり、外の豚舎で大量の豚を育てるためには広い土地が必要不可欠であったり、後継者不足の解消に繋がるためには、もう少し工夫をする必要があると感じました。

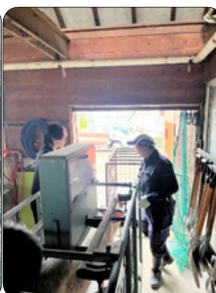
最後に日頃、私たちが食べるものを生産してくださる関係者の方々や命をいただく食べ物や、このような貴重な体験をさせてくださった、農林高校の先生方、その他関係者様に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



みゆきポーク調理の様子



みゆきポーク豚の出荷の様子(11月)



緊張した全国大会 地域創造農学科1年 白川 結

私は昨年10月23日に岩手県の花巻農業高等学校で開催された全国農業鑑定競技に出場しました。私の姉は2度全国農業鑑定競技に出場しており、私にとって全国大会出場は1つの目標でありました。そんな中、学校で行われた初めての農業鑑定テストは椅子の上にある問題を決められた時間で解き次の問題に進むといった他のテストではない形式で行うため短い時間の中で問題がちゃんと解けているのか不安でたまりませんでした。また、学校での全国大会出場枠も3人から2人に減っており、ダメかもしれないと思っていたので入賞、全国大会出場が決まったときは本当に嬉しかったです。出場が決まり全国大会に向けての勉強が始まりました。出場競技は全国大会出場経験がある担任の片桐先生に相談をして、出る競技の決定をしました。担当の長田先生には大会までの勉強方法や日程調整をして頂き、生活の部での出場を決め家庭科の市川先生にもご協力いただき沢山の先生方にご意見を頂きながら放課後や夏休みの時間を使い全国大会に向けて勉強しました。この頃から学校代表になったプレッシャーが大きくなり不安になりましたが、長原先生に全力で向き合う事、そして初めての全国大会だから楽しんでくる事と、アドバイスして頂き沢山の人の支えて頂きながら大会前日に宿泊ホテルに向かいました。ホテルには全国からの出場選手や運営の方もいて、ものすごい人数でした。大会に向け、時間いっぱい復習を行い当日の競技に臨みました。競技会場は緊迫した空気の中、緊張で倒れる選手がいる程でした。自分の番になり、緊張であり競技中のことは覚えていませんが私なりに頑張ったと思います。結果は入賞出来ませんでした。全国大会に出場できたことは本当に良い経験になりました。次の全国農業鑑定競技にも参加できるよう頑張りたいです。



農ク全国大会岩手大会
農業鑑定競技会(10月)

修学旅行を終えて 地域創造農学科2年 嘉生 舞桜



沖縄修学旅行の様子(11月下旬)

私達は2泊3日の修学旅行で沖縄県に行きました。修学旅行では戦争や沖縄の歴史など、学んだことが色々ありました。
修学旅行1日目、最初に向かったのはひめゆりの塔、そしてひめゆり平和祈念資料館です。ひめゆりの塔ではバスガイドさんの説明を受けながら見学をしました。そこにはひめゆり学徒隊の沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒や教師、227名の名前が刻まれています。目の前の場所でたくさんの命が奪われた、そう思うと胸が締め付けられました。ひめゆりの塔で黙祷をした後、平和記念資料館へ行きました。そこでは、ひめゆり学徒隊の人達のことを詳しく書かれており、当時の物が資料として置かれていました。戦争の悲惨さを知り、自分たちに何ができるか考えられる、貴重な時間になりました。
2日目は最初に嘉手納基地を外から見学しました。戦闘機が飛び立つときに出る騒音が、周辺住民を困らせていると初めて知って、米軍基地がある生活の不便さと不安を感じました。話を聞いた後、班ごとの自由行動になりました。私達の班はネオパーク沖縄という、様々な種類の鳥や動物と触れ合える動物園へ行きました。園の管理の仕方では鳥たちが自由に歩き回っていて、至近距離で孔雀やカンムリヅルを見ることができました。なかなかない体験でとても新鮮でした。最後に行ったのは美ら海水族館です。ジンベイザメやナンヨウマンタをはじめとする、様々な魚たちが沖縄の海を再現した水槽で泳いでおり、とても神秘的でした。
3日目は首里城に行きました。あまり時間のない中での見学でしたが、火災からの再建中の首里城や、世界遺産に登録されている園比屋武御嶽石門などを見学しました。今よりも昔にこのような建物が作られていたと実感でき、沖縄の大切な歴史を感じられました。

生徒会活動を経て 生徒会長 澤田 惺穂

今年度も生徒会として様々なボランティア活動を行わせていただきました。去年5月に行われたハルザキヤマガラシ駆除活動は、例年通り木島平村と飯山市の2箇所、開花時期や観光シーズンなどに合わせた1ヶ月早めの4月に行いました。今年も日差しが当たり暑い中の作業でしたが、多くの生徒の皆さんや地域の方々に参加していただき、駆除したハルザキヤマガラシの総重量も相当なものとなりました。2年生のときに、ただただボランティア活動に参加したいからハルザキヤマガラシ駆除活動に参加したのとはまた違い、駆除活動を統率する立場になると先輩方のように後輩へ引き継いでいけるような活動、姿を見せなければいけない責任感と、皆んなで力を合わせなければ地域の景観を守ることはできないと協力の大切さを学ぶことができました。同じく毎年4月に行われる中村区清掃にも日頃から私たちのことを見守ってくださっている地域への感謝の気持ちと共に参加させていただきました。中村区清掃のときも、周りを見渡せば1人で作業をしている人は少なく、ほとんどの人たちが何人かでまとまって助け合いながら作業をしていました。それを見ると、より協力の大切さや仲間との存在の大切さという私の心の中でハッキリとしました。
さらに今年度は、9月に環境創造コースの課題研究班が中心となて行う、緩衝帯整備にボランティアとして参加させていただきました。初めての試みだったのですが、私が予想していた以上の参加者が集まり驚きました。まだ暑さは十分にある中での力を使う作業だったので、開始早々汗が止まらなくなりましたが、参加していた地域の方が私の横を平気な顔で人より大きい草むらの中に入っていったので、私も負けてられないなと気合いを入れて鎌を振りかざしました。私はいつも作業をしながら、農林高校で教えてもらった地域との関わりを大切にするとという言葉思い出し、そしてそのたびに下高井農林高校の生徒であることを誇りに思ってきました。卒業後も、機会があれば色々なところで積極的にボランティア活動に参加していきたいです。ご協力いただいた生徒の皆さん、地域の方々、お世話になった先生方、一年間ありがとうございました。



ハルザキヤマガラシ駆除活動

農業クラブ活動について 農業クラブ会長 白川 和花

今年私達農業クラブは様々な校内行事や地区会の活動に力を入れ活動をおこなってきました。校内の行事に加え、家畜審査競技会、県連研修会など外部の活動に力を入れるなど農業クラブ活動の盛り上がりを感じる年になりました。
5月には、生徒会と農業クラブでハルザキヤマガラシの駆除活動を行いました。駆除活動には農業クラブ員や生徒会だけではなく飯山市職員の方、一般市民の方、飯山高校生徒の方にも手伝っていただき、作業が順調に進みました。飯山市や木島平村の景観を守るとともに多くの方にハルザキヤマガラシのことについて知っていただく良い機会になりました。
6月には、今年で36回となる飯山市フラワーロードに参加しました。農業クラブ員と本校の生徒一緒に活動しました。飯山市城址公園前の花壇の除草や花壇づくりを行いました。本校で栽培している花も一緒に移植し、きれいな花壇が出来上がりました。
11月には農林市を開催し、地域の方々を中心にたくさんのお客様にお越しいただきました。今年もハロウィンイベントと同時に開催して、お子様連れの方々も多く、ゴールデンエッグの絵付け体験や熊鈴ワークショップなど様々な企画で楽しんでいただきました。
今年も無事収穫祭を行うことができました。今年は去年に引き続き本校で育てたみゆきポークを使った豚汁を食べました。自分達で育てたものを自分達で収穫し、いただくことで食や命の大切さをより一層強く感じる事ができました。
例年通り多くの行事の企画・運営を今年も成功させることができ良かったです。



農業クラブ活動の様子



令6年度 役員名簿

役 職 名	氏 名	就任	役 職 名	氏 名	就任	役 職 名	氏 名	就任
顧問(学校長)	藤田 洋子	R6	中 野	湯本 正	H20	飯 山		
名誉会長	高森寿実夫	R1	倭	池田 信一	H25	柳 原		
会 長	池田 利恵子	R6	科 野	高野 広信	R4	富 倉		
副 会 長	山本 隆樹	R2	平 岡	武田 武雄	H19	外 機	南久保 保	H30
副 会 長	渡辺 洋子	R5	長 丘	原沢 和男	H13	太 田	丸山 猛文	H29
副 会 長	宮崎 ゆりか	R6	木 島	荻原 洋平	R3	岡 山	渡辺 敬一	R5
副 会 長			上 木 島	佐藤 吉一	H15	津 南	福原 嘉定	H6
常任幹事	佐藤 吉一	H23	往 郷	高山 君治	H27	長 野	島田 武虎	H30
監 事	月岡 寿男	H19	穂 高	金井 今朝男	H29	常 盤	兼子 喜男	H19
監 事	大平 初枝	H30	瑞 穂	大月 清	H28	菅 平	丸山 直幸	H29
関 東	山口 一喜	R4	野沢温泉	森 修一	H28	飯山市役所	宮本 幸成	H30
上 田			市 川	大口 昭男	H22	J A	勝山 成貴	R4
須 坂			栄	保坂 真一	R2	木島平役場	岡田 孝夫	R5
山ノ内			秋 津					

校内事務局			
事務局長	藤巻 善之	会 計	川崎 康博
事務局次長	福澤 忠男	庶 務	小室 剛

農林祭を終えて 農林祭実行委員長 宇田 貴浩

農林祭実行委員長を務めさせていただきました宇田貴浩です。この一年間を振り返ると数々の思い出が思い浮かびます。農林祭の運営はまさに艱難辛苦の連続でした。農林祭前になると毎日企画案の候補を考えることに追われ、挙げ句の果てには生徒会長による「これは何毛でしょうクイズ」という常軌を逸した頭のおかしい企画を面白いからという理由から通しかけました。農林祭前日の夜にはベットで横になりながら、明日よ来ないでくれと本気で思いました。しかし文化祭を終えクラスのみんなで本気で踊ったダンス、一般公開中の屋台運営様々な思い出が残り、農林祭実行委員長を任せていただき本当によかったなと感じました。委員長として最も思い浮かぶのは全校の皆さんの笑顔。これは一生忘れない最高の思い出です。一般公開でも沢山のの方に来場いただきました。ありがとうございました。



農林祭の様子



編集後記

本会発展のために大変ご尽力いただきました前同窓会長の故村松様を始め、秋津・飯山・柳原支部長様がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。令和が始まり早6年が経過しました。明治39年の創立から令和8年には創立120周年を迎えます。記念事業へむけて準備委員会が立ち上がり、周年事業の準備を進めているところです。世界ではウクライナとロシアの戦争だったり、アメリカ合衆国の大統領の政策だったり、色々気になる情勢はありますが、まずは足元の事から着実に熟していきたいと思います。

長野県下高井農林高等学校峻嶺会

峻嶺会会長 池田利恵子

〒389-2301

長野県下高井郡木島平村穂高2975

峻嶺会事務局

電話0269-82-3115

FAX 0269-82-1813

http://www.nagano-c.ed.jp/nourinn/

e-mail: syunreikai@gmail.com